



大統領が相次いで交代したペルーの政治混乱

清水 達也

2020年12月

(3,928字)

*写真、表は文末に掲載しています

2020年11月、ペルーでは1週間に2回大統領が交代した。

政治や経済の混乱が相次ぐラテンアメリカ諸国のなかでペルーは、2000年代以降、順調な経済成長と比較的安定した政治を維持してきた。しかし、コロナ禍による死者が世界的にみても高い水準に達しているのに加え、経済は域内で最も深刻なマイナス成長が予測されている。そのような状況において、相次いで大統領が交代した。

ペルーで起きている政治混乱とこれまでの経緯、そして今後の見通しについて考える。

何が起きたか？

簡単にいえば、新型コロナウイルスによる死者が増えて経済への悪影響が広がっているにもかかわらず、権力闘争を続けた政治家に対して国民が強く反発した、ということになる。まず最近の出来事を確認しよう。

2020年9月、隠し録りされた音声が開示されたことで汚職の疑惑が強まったビスカラ大統領に対して、野党が大多数を占める国会が罷免審査を開始した。ペルーの国会は一院制で、議員の3分の2以上が賛成すれば大統領を罷免できる。この時は、2021年4月に予定されている総選挙の実施と新型コロナウイルス対策が喫緊の課題であるという世論に押されて、過半数の議員が反対票を投じ、罷免の提案は否決された。

しかし11月になって、ビスカラ大統領が2011～14年にペルー南部のモケグア州知事を務めていた時の汚職疑惑が浮上する。公共事業の落札で便宜を図る代わりに大手ゼネコンから賄賂を受け取っていたと司法取引で捜査に協力した人が証言した。これを裏付けるチャッ

トアプリの会話も公表された。度重なる汚職疑惑に対して国会は再び罷免審査を開始した。ただしビスカラ大統領は高い支持率を維持しており、直前まで罷免の提案は否決されるとみられていた。

この風向きを変えたのが、11月9日に国会で行われた罷免審議でのビスカラ大統領の発言である。「(130人の)国会議員のうち、68人が汚職疑惑の対象として捜査中である。捜査が終わっていないのに(自分が罷免されるなら)あなた方もやめなければならないのではないか」。この発言を国会への挑発と受け止めた多くの議員が罷免へ賛成票を投じた。可決に必要な87票を上回る105票の賛成票によって大統領の罷免が決まった。憲法の規定に従って、10日にメリノ国会議長が大統領に就任し、閣僚を任命して新政権を発足させた。

しかし、コロナ禍への対策が最優先に求められているにもかかわらず、権力を手に入れるためにビスカラ大統領をクーデターにより追い出したとして、メリノ大統領の辞任を求める声が国民の間で高まった。リマ市内の抗議活動は近年にない規模へと拡大し、警察との衝突によって2人の若者が死亡、100人近くが負傷した。閣僚が相次ぎ辞任し、国会も支持を取り下げたため、メリノ大統領は15日に辞任した。

抗議活動を鎮めるために国会は、ビスカラ大統領の罷免に反対した議員のなかから、ビスカラ政権に近い少数政党のサガスティ議員を議長に選出した。同議長は17日に憲法の規定に従って大統領に就任した。サガスティ大統領は就任演説で、抗議活動での死者発生への責任追及のほか、公正な総選挙の実施やコロナ禍への迅速な対応を約束した。

これまでの経緯は？

ペルーでは2018年3月にクチンスキ大統領が辞任しており、サガスティはこの4年間で4人目の大統領となった。相次ぐ大統領交代の背景を理解するために、前回の大統領選挙までさかのぼって経緯を確認する(表1)。

2016年4月の大統領選挙では、ともに右派の、フジモリ元大統領の長女ケイコ・フジモリ候補と元首相のクチンスキ候補が決選投票に進んだ。国会議員選挙では、ケイコが率いるフジモリ派政党が130議席中73議席を獲得した。一方、クチンスキ候補が選挙のために設立した政党は18議席しか獲得できなかった(清水2017)。6月の決選投票では、クチンスキ候補が反フジモリ票を集めて僅差で当選した。しかし国会で圧倒的な影響力を持つフジモリ派の反対により、クチンスキ大統領は難しい政権運営を強いられた。

ブラジルの大手ゼネコンによる南米各国を巻き込んだ汚職事件の捜査が進展し、クチンスキ大統領もこのゼネコンから多額の資金を受け取っていたことが明らかになった。そこで野党が多数を占める国会は2017年12月、クチンスキ大統領の罷免審議を始めた。クチンスキ大統領は、服役中のフジモリ元大統領の恩赦と引き換えに、ケイコの弟で国会議員でもあるケンジ・フジモリを引き込んでフジモリ派を切り崩すことで、罷免阻止に成功した。しか

しこのときの裏取引の証拠となる映像が明るみに出ると、国会は再び罷免審議を始めた。2018年3月、クチンスキ大統領は国会での罷免審議の採決を待たずに辞任した。

憲法の規定に従って第1副大統領から昇格したビスカラ大統領も、国会における野党の反対に悩まされた。そこでビスカラ大統領は、「汚職捜査と政治改革を進めるビスカラ政権」対「これを妨害するフジモリ派の牛耳る国会」という構図を作り上げ、主要メディアと連携して世論を味方につけた。

汚職捜査が進むなか、トレド、ガルシア、ウマラの歴代大統領も捜査対象となり、トレドは米国で、ウマラは国内で、それぞれ勾留された。ケイコもフジモリ派政党が不正な資金を受け取った容疑で捜査対象となり勾留された。大統領を2度務めた経験をもつガルシアは、家宅捜査が入った際に自殺した(清水2019)。汚職捜査の進展は、既存の政治家と国会の信頼失墜につながり、ビスカラ政権の立場を有利にした。

そして2019年9月、ビスカラ大統領は政権運営を妨げ続ける国会を解散した(磯田2020)。大統領によるクーデターだとして野党は反発したものの、世論は大統領を支持し、のちに憲法裁判所も国会解散を合憲と判断した。2020年1月に実施された臨時国会議員選挙では、フジモリ派政党が大きく議席を減らしたものの、大統領を支持する政党の議席は少数にとどまり、両者の対立構造は残った(中沢2020)。

ビスカラ政権はコロナ禍に対して、国境の封鎖、夜間外出禁止令、所得補償などの対策を迅速に行うことで、当初は世論調査で高い支持率を得た。しかしコロナ禍への対応が一段落するなかで汚職疑惑が相次いで表面化したため、国会が大統領罷免審査を開始し、前述のとおり2回目で大統領を罷免した。

今後の見通しは？

2000年代から2010年代前半にかけてのペルーは、資源ブームの恩恵もあり安定した経済成長を遂げた。政治においても、各大統領が5年の任期を全うして次の政権に引き継いだ。2016年に選出されたクチンスキ大統領は、国際金融機関での経験に加えて経済財政相や首相も務めており、ペルーをさらなる成長へと導くと国民は期待していた。しかしながら、汚職捜査が進んで歴代大統領が次々と逮捕され、さらに大統領と国会が対立して足を引っ張り合うという最悪のタイミングでコロナ禍に見舞われた。ペルーが過去20年にわたって築いてきた成長と安定が失われつつある。2021年に建国200周年を迎えるペルーは今後どうなるのだろうか。

ペルーの政党のほとんどは、「カウディジョ」とよばれる政治的有力者が組織を支配する個人政党である。そのため、数が多いだけでなく、限定された地域にしか影響力を持たず、全国レベルの政党がない(村上2012)。そのような政党がイデオロギーやプログラムにもとづいて幅広い国民の支持を得るのは難しい。2021年4月の総選挙でも、20を超える政党が

大統領候補を立てるとみられることから、この状況がすぐには変わるとは考えにくい。しかし、今回の政治混乱に危機感を持ち、幅広い国民の支持を得るために力を注ぐ政党があらわれれば、建国 200 周年はペルーにとって新たな政治的安定と経済的成長の出発点となるかもしれない。■

写真の出典

- Samantha Hare, Protest of Nov 17 – City Centre (Lima, Peru) (CC BY 2.0).

参考文献

- 磯田沙織 2020 「ペルーにおける国会解散」『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 36, No. 2.
- 清水達也 2017 「右派への支持が集中した 2016 年ペルー大統領選挙」『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 33, No. 2.
- 清水達也 2019 「ペルーを代表するカリスマ政治家」『IDE スクエア』.
- 中沢知史 2020 「2020 年ペルー臨時国会議員選挙——ビスカラ政権における政治勢力の断片化と混迷の深化——」『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 37, No. 1.
- 村上勇介 2012 「ペルー左派政権はなぜ新自由主義路線をとるのか？——「左から入って右に出る」政治力学の分析——」『ラテンアメリカ・レポート』 Vol. 29, No. 2.

著者プロフィール

清水達也(しみずたつや) アジア経済研究所ラテンアメリカ研究グループ長。博士(農学)。ラテンアメリカの経済開発、農業開発のほか、ペルーの政治経済の動向を研究。おもな著作に、『ラテンアメリカの農業・食料部門の発展——バリューチェーンの統合』アジア経済研究所(2017年)、『途上国における農業経営の変革』(編著)アジア経済研究所(2019年)など。





リマ市中心部サンマルティン広場の抗議活動。

「私たちは右派も左派も支持しない」のプラカードを掲げている。(2020年11月17日)

表1 ペルー政治の主要なできごと（2016年4月以降）

2016年	4月10日	総選挙（大統領、国会議員） ケイコ・フジモリ、クチンスキ決選投票へ
	6月5日	決選投票でクチンスキ当選
	7月28日	クチンスキ大統領就任
2017年	12月21日	ペルー国会、クチンスキ大統領の罷免を否決
	12月24日	クチンスキ大統領、フジモリ元大統領を恩赦
2018年	3月21日	クチンスキ大統領辞任
	3月23日	ビスカラ第1副大統領、大統領に就任
	10月3日	最高裁、フジモリ元大統領恩赦を取り消し
	11月11日	ケイコ・フジモリ勾留
2019年	4月17日	ガルシア元大統領自殺
	9月30日	ビスカラ大統領、国会を解散
	11月29日	ケイコ・フジモリ釈放
2020年	1月26日	国会選挙
	1月28日	ケイコ・フジモリ再勾留
	5月4日	ケイコ・フジモリ保釈
	9月19日	ペルー国会、ビスカラ大統領の罷免を否決
	11月9日	ペルー国会、ビスカラ大統領の罷免を可決
	11月10日	メリノ国会議長が大統領に就任
	11月15日	メリノ大統領辞任
	11月17日	サガスティ大統領就任
2021年	4月11日	総選挙（大統領、国会議員）
	7月28日	大統領就任

（注）2021年は予定。（出所）筆者作成